

さぬき市教育事務点検評価委員会（第2回） 会議要旨

- 1 日 時 平成28年8月22日（月） 9：30～10：14
- 2 場 所 さぬき市教育委員会2階会議室
- 3 出席者 【委員】宮本 強 伊座並大一 渡邊千栄美
 【事務局】安藤教育長 間島教育部長 中川教育総務課長
 谷学校教育課長 間嶋生涯学習課長
 石原学校再編対策室長 富田幼保連携推進室長
 富田教育総務課副主幹
- 欠席者 無し
- 傍聴者 無し
- 4 議 題 教育委員会の事務の点検及び評価報告に対する意見等について
 その他
- 5 会議の内容

発言者	意見概要
(教育部長)	ただ今から、さぬき市教育事務点検評価委員会（第2回）を開会します。なお、傍聴については、申請はありませんでした。では、開会に当たり、教育長から御挨拶を申し上げます。
(教育長)	(教育長挨拶)
(教育部長)	次第に従い、進行していきます。 3教育委員会の事務の点検及び評価報告に対する意見等についてですが、まず、前回会議以後に修正した箇所について、説明します。
(事務局)	(前回以後に記述を修正した箇所について、資料に基づき説明した。)
(教育部長)	では、教育委員会の事務の点検及び評価報告に対する意見等について、委員それぞれから、既に書面での提出がありましたが、補足説明も含めて改めて意見をお願いします。
(委員)	(別添意見書のとおり)
(事務局)	書面に記載した事項以外に、指摘、感想、その他確認しておきたいことなどは、ありませんか。
(委員)	社会教育団体の育成・支援の評価がCであることについてですが、戦後、社会教育の分野では、子ども・青年・婦人・一般成人に対し、教育委員会が主導して、その教育の場を設け、それらの団体の活動の場において、教育委員会が大きな役割を担っていました。現代では、学習や活動の機会が民間の施設や機関、行政においても、教育委員会だけでなく、市長部局や社会福祉協議会を始め関係機関で行われるようになり、教育委員会主導だけではなくなってきました。このようなことから、取組が十分ではなかったということで評価がCとしていると思いますが、一方で、教育委員会がスポーツ団体や文化協会に対し補助金を交付していることを通して、例えば、文化協

	<p>会では1500人近い人が関わり、生き生きと活動しています。このことから、必ずしもCと評価するほど不十分でもないようにも思います。引き続き、補助金の交付や施設利用の際の使用料の減免などの環境を整えることで、目的は達成できるのではないかと思います。</p> <p>学校教育というのは、バケツに水をためるようなものと例えられることがあります。どんどんかさが増え、バケツが一杯になったら卒業するというようなカリキュラムがあり、専門の指導者、専用の施設もあります。一方、社会教育では、資格を持った専門指導者や特定のカリキュラムといったものがあるわけでもなく、しかも対象が不特定でもあります。いわば、ざるに水をためるようなものです。しかし、たまたま濡れているわけなので、その濡れた人をできるだけ多くしていくことが必要だと思います。</p>
(事務局)	<p>Cと評価する以上の一定程度の成果はあるのではないかとコメントは、ありがたく思います。各種団体等への補助金等は、今後も継続する予定です。これに加え、これらの団体間のつながりというものが、今後の地域の活性化を求める上で重要になるので、これらに関する取組等を支援していきたいと考えています。</p>
(教育長)	<p>例えば、文化協会については、総会資料を見る限り、毎年50人から100人のペースで減少しているのが現状です。また、文化祭の展示物においても、これまで出展していた団体が解散したという話も増えてきました。とはいえ、サークル等に参加し、練習し、上達し、その上達した人が次の指導者になるという循環が、生涯学習社会の構成であると言われる中、スパンは長く、スピードもゆっくりではありますが、進んでいくものと考えています。教育委員会が指導するという視点ではなく、学習会や活動に参加している者が主体的に参加しているかどうかが重要になると考えています。活動の主体が、主にいわゆる年金生活者となっている現状も踏まえ、今後の取組を検討したいと考えています。</p>
(委員)	<p>人的募集をする場合、様々な方法を用いて広報しても、なかなか集まらない行事もあると思います。それは、参加料の問題ではないと思います。そのような状況であっても、日曜・祝日には、部活動は行われ、生徒は参加しています。公式試合の日ならともかく単なる練習であれば、スポーツ少年団や学校に対し、早めに声掛けをし、協力を依頼することが必要だと思います。様々な行事についても同様で、単なる個人的なお願いではなく、そのようなところを突いていってはどうかと思います。</p> <p>また、瀬戸内国際芸術祭を参考にするというのは、規模的にも財政的にも異なるものですが、魅力を感じさせるその発想については、様々な行事に対する人集めに活用できるのではないかと思います。</p>
(教育長)	<p>子どもの頃や若い時にどのような経験をするかが、後の人生にとって大きな意味を持ってくと認識しています。しかしながら、最近では、事故などの有事の補償問題が悩みの種になっています。例えば、市内全域の中学生に自転車に参加を求めた場合、その際の交通事故の責任問題はどうかということです。小学生の場合も、子どもだけで自由に集まって来いとはいかず、保護者同伴ということになります。また、最近のような猛暑の中で活動するといった場合に、熱中症になったときの補償はどうするのかといったことが、早くも課題として出てきつつある状況です。若い時に</p>

<p>(委員)</p>	<p>たくさんの経験が必要であることが重要であることは十分に認識していますが、一方で、世の中の流れもあり、他の様々な要素も考慮しなければならないという点については、御理解いただきたいと思います。</p> <p>先日の新聞に、県市議会議長会による県知事への要望のことが掲載されており、スクールソーシャルワーカーの配置に対する補助のことが取り上げられていました。さぬき市でも積極的に取り組んでいることは評価しているところですが、できれば正規職員化し、学校に常駐するような体制が望ましいのではないかと思います。人材の確保は容易ではないとは思いますが、早い時期に関係機関に足を運ぶなどのリクルート活動にも力を入れ、継続した配置ができるような体制を整えてほしいと思います。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>正規職員化については、所管課としても要求しているところですが、一般的な認知度が低いのか、今のところ実現には至っていません。県内他市では、平成29年度からの正規職員化に向けた動きもあるようなので、引き続き要求していきたいと考えています。今年度では、3名配置する予定のところ1名の欠員状態ですが、この度、応募があり、本日の午後に面接を行う予定です。その結果がどうなるかは分かりませんが、人材確保については、努めていきます。</p>
<p>(教育長)</p>	<p>スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーは、必要だと思っています。アメリカの小学校では、1校に必ず1名が配置され、カウンセリング専用の部屋も用意されています。アメリカにはアメリカの環境や事情があつてのこととは思いますが、それでも日本でのスクールカウンセラーなどに対する意識は遅れています。現在、全国でも相談業務に携わるための国家資格を有している者は、少ない状況です。例えば地震や重大な事件があつたときに、臨時に重点的に派遣するということがありますが、国もその必要性を認識しているのであれば、常に配置をしてもよいのではないかと考えるところですが、全国2万弱の小学校、1万弱の中学校に配置するとなると財政的なこともあり、実現していません。さぬき市においては、3名体制で薄く広くではありますが、必要とする学校には迅速に対応できるようにしたいと考えています。このことは、今後の大きな課題の1つであると認識しています。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>他に意見等はありませんか。</p> <p>(意見・質疑等なし)</p>
<p>(事務局)</p>	<p>次に、今後の報告書の取扱いについては、明日23日に、教育委員会定例会を開催し、その中で正式な報告書として決定し、その後、市議会に報告するとともに、市民にも公表することとしています。</p> <p>以上で本日の会議を閉会します。</p>

1. 教育方針に係る施策の評価について

(1) 「生涯にわたって学び、自立して生きる力を持つ人を育む。」について

全国学力・学習状況調査や香川県学習状況調査の正答数分布グラフにおける二極化の下位置に属する児童生徒の学力向上が、課題となっている。このため、学校訪問や初任者指導訪問、園長・校長研修会で指導方法について指導・助言を行ったことや、教務主任や現職教育主任研修会で、授業改善等について話し合ったことは評価できる。一方、学力向上には家庭教育の充実による学習習慣化が不可欠であるが、協力を得られない家庭も少なくないようである。また、e-ライブラリーの学校・家庭での効果的活用が十分でないようであるが、これらは、今後の課題として一層の工夫が求められる。

(2) 「自然や人間・文化に学び、ふるさとを愛する人を育む。」について

ふるさと教育は、郷土愛を深め、郷土に誇りをもち、郷土の発展に寄与する意識を高めるうえで大切な教育分野である。そのため、社会科副読本の活用、文化財の保護や展示について努力していることは評価できる。一方で、施設や資料展示がありながら十分に活用されていないことが課題である。児童生徒のみならず成人に対しても郷土資料、考古資料、史跡、遺跡等で見学・学習できるようPRに努めて欲しい。

(3) 「ふれあいと連帯の心を養い、人権を尊重する人を育む。」について

児童生徒の人権啓発に関する作文、標語、ポスター、書写等に多くの応募があったことや、それらの作品の展示、作文集の発行などは評価できる。さらに、こうした事業や各学校（園）の人権講演会の実施等を通じて、指導者の人権意識を高め、実践力を育成できたことは評価できる。一方、未実施校（園）に対しては、実施できるよう支援していく必要がある。また成人に対する人権教育・啓発は継続して実施されていて定着しているが、今後、テーマや講師の選定に留意し、且つ成果がいっそう深化していくよう努める必要がある。

(4) 「生命の尊重と健康の増進に努め、しなやかな心身を持つ人を育む。」について

学校（園）における教育相談体制に関しては、スクールカウンセラー、心の教室相談員、スクールソーシャルワーカー等を適切に配置して、対象児童生徒の好転に寄与し、自尊感情を向上させていることは評価できる。また、歯の健康教育に関しては、フッ化物洗口の実施率を向上させていることは評価できる。一方、各種スポーツの奨励を推進しているが、スポーツ推進員の不足、施設の老朽化等が課題となっている。施設の修理・改修等については、一気には無理と思うが、これまで通り、活動に支障（特に怪我）がないよう適宜対応していく必要がある。

2. 教育委員会の活動状況に関する評価について

教育委員会では、案件に対する審議の他、学校（園）や市民に係る行事に参加して、現場の実態や問題点の把握に努めていることは評価できる。今日の少子化時代において、住民の居住地選択は自由度を増している。その選択肢の一つとして教育環境の良否がある。次世代を担う尊い人材としての子どもに対し、より良き教育環境、質の高い教育の提供が一層重要になってきている。今後とも、教育委員会は、諸施策を誠実に実行するとともに、現場に足を運んで、様々なニーズを把握し、住民の信頼を高められるよう一層の努力をする必要がある。

1. 「生涯にわたって学び、自立して生きる力を持つ人を育む。」について

「うちの学校（園）自慢」の冊子を作成することは困難であり、その存否も含めて計画内容の見直しを検討するようだが、早急にその原因を検証していくことが必要である。「特色ある学校（園）教育活動の創造」において、「うちの学校（園）自慢」を作ろうという趣旨は良いと思う。引き続き、学校（園）の現状を把握しながら、実現できるように努めてほしい。

全国学力・学習状況調査、県学習状況調査の分析を毎年行っていることが、各学校において、児童生徒の実態を踏まえた授業改善に生かされていると思う。今後も学校訪問時だけでなく、各研修会等において、全教員に対して、指導の徹底を図ってもらいたい。また、授業や家庭学習において、主体的に取り組む姿勢に課題が見られるようだが、その原因等をしっかり調査する必要がある。そのためには、家庭生活も重要であるとともに、保護者の協力も必要である。

学校訪問等で得た優れた実践例の紹介・普及に関し、市独自の「委員会通信」を発行できなかったようだが、本年度は、是非とも発行できるように努めてほしい。

放課後子ども教室は、子どもだけでなく、親にとっても大変ありがたいことである。予算面とともに活動場所や支援ボランティアの確保に努めてほしい。

2. 「自然や人間・文化に学び、ふるさとを愛する人を育む。」について

社会科副読本「わたしたちのさぬき市」を各校に配布し、活用を図っていることは評価できる。効果的な指導ができるように、各教員に対しての働き掛けも必要である。今後も効果的な指導事例の把握に努め、改訂検討委員会において、内容の充実等に生かしてもらいたい。

ふるさと教育を推進していくためには、教員自身が積極的に史跡や施設等に出向いて研修していくように支援・指導していく必要がある。雨滝自然科学館や歴史民俗資料館での企画展の開催をこれからも継続してほしい。そのためには、内容の工夫・充実と、より多くの見学者が来館してもらえるような広報活動をしてほしい。瀬戸内国際芸術祭のような内容や場の工夫を参考にするのも良いのではないだろうか。

3. 「ふれあいと連帯の心を養い、人権を尊重する人を育む。」について

人権・同和問題解決のためには、全教職員の力が必要である。市人権・同和教育研究グループの参加者は、積極的に周囲に声掛けして、一緒に検討会に参加を促すようにするとともに、管理職の協力・支援が必要である。

人権講演会や人権劇等の未実施校（園）は、なぜ実施できていないのかを検証し、是非とも実施できる方向に支援・指導していく必要がある。

啓発用のDVD等は、学校現場だけでなく、地域住民・企業等への貸出しを積極的に行い、人権出前講座等とともに鑑賞会を開催することも必要である。そのためには、人権・同和問題解決学習の実践事例並びにDVDの活用事例を具体的に示したパンフレットの配布や広報も必要である。

4. 「生命の尊重と健康の増進に努め、しなやかな心身を持つ人を育む。」について

「学校危機管理体制の点検と推進」において、目標値・実績値共に100%達成していることは評価できる。「学校安全コミュニティ事業の実施」において、緊急時等の情報が全保護者へ確実に伝わる手段・方法等の工夫に努めてもらいたい。

いじめ・不登校・暴力行為等の未然防止事業の取組とともに幼児・児童・生徒の虐待防止と虐待の把握にも努めてもらいたい。

「文化・観光名所を活用したスポーツ事業」において、参加者増加を目指し、中学生以下の参加料を半額にしたようだが、金額の問題ではないように思う。中学校に協力・理解を得て、実施当日は部活動として時間確保・参加要請をすることを考えてみてはどうだろうか。

5. 「教育委員会の活動状況」について

これからも学校再編計画推進事業により、小・中学校統合事業も大変であるが、さぬき市のより良い未来をつくるために、行政がしっかりと教育を支えていくことを願っている。「さぬき市教育振興基本計画」にある教育施策の推進、実現に努めてほしい。

1. 「生涯にわたって学び、自立して生きる力を持つ人を育む。」について

「読書のまち さぬき」に向けた各小・中学校での読書活動は、具体的な目標に向かって継続しており、評価できる。

幼保一体化に関する検討と研究については、平成28年度からの新しい部署の幼保連携推進室において、教育・保育計画の具体的な見直しを早急に行う必要がある。また、保育所・幼稚園職員の研修を計画的に行い、お互いに学習をし、協調しながら進めていくことが重要である。さらに、幼稚園教諭と保育士の人事交流等を確実にし、幼保一体化の効果について、研究を推進する必要がある。

特別支援教育及び早期からの教育相談・支援体制に関し、市単独での支援コーディネーター配置や、巡回訪問など現場での指導等は、他市に比べ、先進として高く評価できる。幼児・児童にとっては、早期の支援が今後の学校生活に大きく影響すると考えられるので、継続的に関わっていくことが重要である。また、保護者、教諭、特別支援教育支援員・学校生活支援者・幼稚園生活補助員の資質の向上、専門知識の取得は、必要不可欠である。今後も、保健福祉部局との連携を強力にし、積極的に取り組む必要がある。

学校・家庭・地域による教育支援の推進については、学校支援ボランティアの育成・増員を図ることが急務である。また、放課後子ども教室では、年々充実が図られているところではあるが、活動場所を確保し、全ての小学校での実施を目指していただきたい。

公民館等における受益者負担の適正化については、公民館運営審議会等で公民館施設の使用料の平準化及び減免の在り方を検討したことは、評価できる。しかしながら、市の公共施設再生基本計画等により全体的な構図の中で検討を重ねていかなければならないとはいえ、実施が遅滞していることは、大変残念である。今後は、連携・協議を早急に進めていただきたい。

2. 「自然や人間・文化に学び、ふるさとを愛する人を育む。」について

ふるさと教育の取組を成果報告書にまとめ、市内の学校に紹介したことは、評価できる。単年度で終わらず、全校で共有し、継続することが必要と思われる。

郷土資料の展示や郷土資料の保存と活用は、展示物や郷土資料が多種多様であり、時間も掛かると思うが、わかりやすい展示を行っていただきたい。また、利用の拡大には、いろいろなメディアを使って広げることが重要である。展示、特別展だけでなく、いろいろなイベントや施設と協賛し、市内を廻るコースなどを考えて、利用者を増やすことなど考えていただきたい。

3. 「ふれあいと連帯の心を養い、人権を尊重する人を育む。」について

人権教育については、今後とも幼稚園や学校での人権講演会等の活動を継続していただきたい。また、社会教育団体等の広範囲の対象者に対する啓発の推進は、非常に多岐にわたるので、それぞれのニーズを把握しながら推進していただきたい。人権啓発作品の募集や作品展示などを通して市民などにも啓発ができてきていることは、評価できる。作品募集時には児童生徒と保護者との共通の話題ができ、啓発効果があると思うので、継続していただきたい。

4. 「生命の尊重と健康の増進に努め、しなやかな心身を持つ人を育む。」について

いじめ・問題行動のある児童生徒に関し、児童生徒の心の問題や家庭・友人・地域・学校等の環境の問題が複雑化してきている。そのため、心の教室相談員・スクールソーシャルワーカー等の相談、家庭訪問等で改善があったことは、評価できる。スクールソーシャルワーカーは、今後とも大

変重要になりつつある。児童生徒・家庭・特に学校と関係機関等などとの調整役としての役割は、多大である。そのため、人材には継続性が必要で、増員や正規職員などの対応が急務であり、継続性の高い連携体制の構築を図るべきである。

少年育成センターについては、悩みのある子どもや保護者のための相談を学校とは違った立場で行い、関係機関との連携を図っていただきたい。適応指導教室の通級生の学習については、指導者や学習教材・学習スペースを十分確保することが必要である。

5. 「教育委員会の活動状況」について

教育委員会の会議で十分審議されていることが伺える。学校訪問や各行事等への参加を通して、学校経営等に対する把握や指導がなされることを今後も期待している。

さぬき市教育振興基本計画をはじめ、関係ある各種の市の計画と共有しながら、執行していただきたい。